

令和5年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(榛沢小学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
榛沢小	下回った	上回った	下回った	上回った	上回った	上回った
埼玉県	63.6	62.7	60.8	63.9	63.0	56.5

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
榛沢小	6-C	7-B	7-C	5-B	6-C	6-A
埼玉県	6-C	7-C	6-B	5-C	6-C	6-B

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
榛沢小		6	2		3	1
埼玉県		3	2		2	1

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		小4		小5		小6	
質問事項		榛沢小	埼玉県	榛沢小	埼玉県	榛沢小	埼玉県
深谷の子の誓い	・将来の夢や目標を持っている	70	86.8	95.2	86.5	93.8	81.9
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	85	82.6	100	75.5	78.1	74.3
	・はっきり挨拶をすることができる	100	80.3	90.5	77.4	84.4	77.7
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	90	82.1	95.2	81.8	81.2	85.8
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができる	90	86.4	95.2	84.6	87.5	85
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	40	45.6	57.3	43.3	53.1	45.2
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	70	55	80.9	59.4	71.9	58.4
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	20	27.3	28.6	20	6.3	17.3
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	60	70.2	66.7	72.1	68.8	76.1
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	85	76.2	95.2	69	75.1	64.9
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	70	73.3	90.5	68	50	65.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	85	77.6	100	77	65.7	75.6
	・授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた	20	16.8	38.1	16.4	18.8	17.8
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	35	24.8	42.9	24.3	40.7	24
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	100	90.4	100	91.7	84.4	92.6
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	85	90.6	100	92.3	87.6	92
	・学級での生活は楽しい	95	93.6	95.2	91.2	59.4	90

【質問紙分析】

- ・昨年度同様に、ICT 活用に関する項目については県の平均と比較して高い。家庭においても、学習や学校からの連絡手段として日常的に活用していることや、職員研修において、教員がタブレットの有効な活用を学ぶことで、タブレットの文具化が進み、従来の調べ学習だけでなく協同的に学ぶツールとして定着していることが理由であると考えられる。
- ・休日の学習時間が、全ての学年で県平均を上回った。昨年度の結果から、家庭学習の取組を見直し「榛沢小学校 家庭学習のすすめ」を作成し、各家庭、児童に周知したことが理由であると考えられる。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

- ・伸びが見られた学級では、ICT 機器を効果的に活用して協同的に学ぶ機会を設けたり、主体的に学ぶための習慣を身につける授業や家庭学習に取り組ませたりしていた。職員研修や学校研究の授業研究を通して職員全体に広める。
- ・家庭学習について、「榛沢小学校 家庭学習のすすめ」を作成し、宿題に取り組む目安時間や、具体的な取り組み例を示したことで、意欲的に取り組む児童が増加した。

【国語】

- ・伸びが見られた学級では、「物語」「説明文」の授業において、学習の流れを明確にし、読み取るべき内容や、その見つけ方を学んでいた。年間2～3つの単元で同じ流れで学習をしたため、読む力が身についたと考えられる。

【算数】

- ・ICT を活用して図形を操作するなど、具体的なイメージをもって学習に取り組んでいた。また、ドリルパークなどを活用して個に応じたレベルの問題に取り組み、効率よく学ぶことができた。

一人一人をより伸ばすための取組

【国語】

- ・授業では、物語文・説明文の授業の型を全校で統一し、繰り返し丁寧に読む学習に取り組ませる。また、児童が苦手意識を感じる「書く」活動については文型を示しながら練習させるなど、学年の段階に応じた指導を確実に実施する。
- ・読書を全くしない児童への対策として、全校で年間数回、読書月間を設け本(活字)に触れる機会をつくるとともに、学校図書の入替をすすめ、読書意欲の向上を図る。

【算数】

- ・少人数指導、ドリルパークの活用など個に応じた指導を徹底して行う。また、ICT や具体物の活用を充実させ、実感を伴った学習ができるようにする。
- ・自分の考えをまとめる活動を充実させ、「なぜ」そう考えたかを論理的に説明する力を身につけさせる。